施策評価（令和7年度）

戦略4 未来創造・地域社会戦略			
目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現			
幹事部局名	あきた未来創造部	担当課名	次世代・女性活躍支援課
評価者	あきた未来創造部長	評価確定日	令和7年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

女性や若者が、様々な分野において、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	判定	備考
①	【施策の方向性①】 「男は仕事、女は家庭」という考え方に 反対する人の割合(%)	目標			65.0	66.0	67.0	68.0	104.3%	4	
		実績	60.3	63.0	67.5	70.1	69.9				
	出典: 県「県民意識調査」	達成率			103.8%	106.2%	104.3%				
②	【施策の方向性②】 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動 計画策定企業数(従業員数100人以下の企 業)(社)	目標			350	400	450	500	122.0%	4	
		実績	172	241	374	466	549				
	出典: 厚生労働省「都道府県別女性活躍推進法 に係る一般事業主行動計画策定届出状況」	達成率			106.9%	116.5%	122.0%				
③	【施策の方向性②】 民間事業所の管理職(課長相当職 以上)に占める女性の割合(%)	目標			20.5	21.0	22.0	23.0	105.0%	4	
		実績	18.6	19.3	21.1	22.2	23.1				
	出典: 県「労働条件等実態調査」	達成率			102.9%	105.7%	105.0%				
④	【施策の方向性②】 民間事業所における男性の育児休 業取得率(%)	目標			13.0	14.0	15.0	16.0	223.3%	4	
		実績	8.8	10.7	17.9	32.6	33.5				
	出典: 県「労働条件等実態調査」	達成率			137.7%	232.9%	223.3%				
⑤	【施策の方向性③】 若者による秋田の活性化や地域貢 献に資する取組件数(件)	目標			5	5	5	5	80.0%	2	
		実績	—	1	4	4	4				
	出典: 県調べ	達成率			80.0%	80.0%	80.0%				

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.60 (a 相当)	4点 × 4個 = 16点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 0個 = 0点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 1個 = 2点
	合計 18点 ÷ 5個(判明済み指標) = 3.60

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 男女共同参画の推進】

- 男女共同参画に対する県民の関心と理解を深めるため、男女共同参画推進月間（6月）に県民向けのイベント「ハーモニーフェスタ」を開催（参加者319人<+46人>）し、男女共同参画に精通した外部講師による基調講演やパネルディスカッションを通じて県民の意識醸成を図った。
- 市町村や企業、学校など地域での男女共同参画の活動促進のため、10月に県内の男女共同参画センターやあきたF・F推進員、女性人材登録名簿登録者を対象とした全県の連携会議を開催（参加者61人<+1人>）し、有識者による講座や分科会等を通じた意見交換を実施するなど、相互連携のためのネットワーク構築、強化を図った。

【施策の方向性② あらゆる分野における女性の活躍の推進】

- 女性の挑戦や活躍への意識改革を促進するため、相互研鑽の場を提供する官民一体のラウンドテーブルを6回開催し、講演会に延べ859人<+17人>、ワークショップに延べ181人<△10人>が参加した。
- 女性活躍の推進に積極的に取り組んでいる企業に対し、職場環境の整備等に対して、補助金・支援金による支援を行った結果、厚生労働大臣が認定するえるぼし認定企業が増加（19社<+6社>）したほか、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業が増加（549社<+83社>）するなど、職場環境整備の意欲向上につながった。
- 企業経営者の理解促進を図るため、女性の活躍推進に取り組む企業6社取材し、SNSなど様々なメディアを活用して好事例の情報発信を行ったほか、経営者・マネジメント層向けの研修会を県内3地区で計13回開催し、地域の核となって活動することが期待されるロールモデル企業28社が参加した。
- 首都圏在住の若年女性を対象に、意見交換やワークショップなどを行う交流会を開催した（3回、参加者61人）。交流会等により把握した若年女性の秋田に対するニーズ等を集約し、啓発リーフレットを作成して県庁内や市町村、商工団体等へ配布することにより、官民における若年女性の定着・回帰の推進を図った。
- 魅力的な職場づくりへの取組を促進するため、参加企業（10社）に対して、職場環境整備等をテーマとした実践講座の開催や専門家による伴走支援を行ったほか、若者の職場定着や働きやすい職場環境をテーマとした異業種交流会（3回、参加者81人）や取組事例等を紹介する報告会（参加企業91社）を開催し、企業の意識改革や理解促進を図った。

【施策の方向性③ 若者のチャレンジへの支援】

- 高校生等が企画する地域活性化に向けた取組の実現を支援し、若いうちから主体的に地域活動に関わる機会を創出した（活動経費支援件数8件<±0件>）。
- 若者による地域活性化に向けた自発的な活動を促進するため、啓発セミナー（1回）やスキルアップ教室・交流会（計7回）の開催等により、地域活動に意欲のある若者同士の仲間づくりの場やスキルアップの機会を提供したほか、地域課題の解決に向けたチーム活動を支援した（参加者29人<+14人>、13チーム<+9チーム>で活動）。
- 若者ならではの斬新なアイデアや柔軟な発想を生かした新たな手法によるアプローチ、これまで取り組まれてこなかった分野への挑戦等を、資金面はもとより、専門家からのアドバイス等により一貫して支援し、若者の活躍を促進した（応募数40件<+12件>、新規採択数8件<+3件>）。
- 青少年問題について考え、行動する契機となるよう、青少年健全育成秋田県大会及び青少年の非行・被害防止標語コンクールを実施した。また、無業の若者の職業的自立に向けた支援を実施し、あきた若者サポートステーションでは若者51人<±0人>の進路決定に結び付けたほか、県内各地に設置している「若者の居場所」では、社会的自立に困難を抱える若者やその家族が社会貢献活動に参加することなどにより進学・就職等のきっかけづくりを行っており、社会的自立に向けたステップとして146人<△36人>がボランティア活動に参加した。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
a	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.60で「a相当」であることから、総合評価は「a」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文		女性や若者が、個性や能力を発揮して活躍できる環境づくりが進んでいる。					
満足度		調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見		6.2%	4.4%	3.4%		△1.0
	十分 (5点)		0.9%	0.5%	0.7%		+0.2
	おおむね十分 (4点)		5.3%	3.9%	2.7%		△1.2
	ふつう (3点)		39.8%	28.2%	23.5%		△4.7
	否定的意見		41.6%	57.5%	63.4%		+5.9
	やや不十分 (2点)		23.4%	31.8%	33.5%		+1.7
	不十分 (1点)		18.2%	25.7%	29.9%		+4.2
	わからない・無回答		12.5%	10.0%	9.6%		△0.4
	平均点		2.40	2.13	2.01		△0.12

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 県民意識調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して反対する人の割合が増加しており、固定的な性別役割分担意識は、徐々に解消されてきているが、いまだ性差による偏見や格差が存在している。	○ 地域における女性の参画拡大を図るため、ジェンダーギャップ解消に向けたワークショップを開催する。また、市町村主体でワークショップを開催することを推進するため、あきたF・F推進員等のスキルアップを目的とした講師育成講習会を開催する。
②	○ 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数は増加しており、企業の女性活躍の取組は広がっているが、女性管理職割合は伸び悩んでいる。	○ 県内企業の女性活躍の取組を推進するため、経営者層と女性従業員を対象とした研修会を開催するほか、男性の育休取得を推進するためのセミナー開催により女性活躍推進企業の拡大と気運の醸成を図る。
③	○ 地域貢献を意識して秋田での進学・就職を選択する若者が一定数いるものの、具体的な行動に移している者は少ない。 ○ 県内各地に設置されている「若者の居場所」の利用者数や支援体制に格差が生じている。	○ 若い世代が主体となった地域づくり活動や地域活性化に向けた取組を促進するため、それぞれの思いを発表・共有する場を設けて活動の受け皿となる団体の組成を支援する。また、ロールモデルとなり得る斬新なアイデアを持つ若者の挑戦を支援する。 ○ 各居場所の実態を調査して情報共有するとともに、各居場所が孤立することのないよう、居場所間の情報交換等を通じて連携を強化するほか、支援を必要とする若者が居場所の存在を知り、気軽にアクセスできるよう周知に努める。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「a」をもって妥当とする。